

日本歯周病学会 第73回 歯科衛生士教育講演会 報告

1. 研修会名：日本歯周病学会第73回歯科衛生士教育講演会（日本歯科衛生士会 第4次生涯研修）
2. 主催：特定非営利法人 日本歯周病学会（歯科衛生士関連委員会）
3. 共催：石川県歯科衛生士会
4. 日時：平成29年7月30日（日）10:00～15:30（受付9:30～）
5. 石川県歯科医師会館 2F
石川県金沢市神宮寺1丁目20番5号
6. 演題：①「患者さんとのコミュニケーション、とれてますか？～禁煙支援と行動変容を考える～」
②「歯科衛生士として患者さんに説明できますか？～口腔機能回復療法とは～」
7. 講師：渋谷 俊昭（日本歯周病学会歯科衛生士関連委員会 前委員長）
野村 正子（日本歯周病学会歯科衛生士関連委員会 委員）
8. 研修単位：①②の両方に該当する場合は、それぞれの単位取得が可能
 - ①日本歯周病学会会員の場合
 - ・認定歯科衛生士制度における申請時の教育研修単位（8単位）
 - ・更新時の生涯研修単位（10単位）
 - ②日本歯科衛生士会会員、会員外の場合
 - ・第4次研修制度に基づく専門研修単位（歯周治療の基本技術）
IV-B 行動変容に必要な知識と技術 1単位
IV-C 禁煙支援 1単位
VI-C 口腔機能回復療法について 2単位
9. 内容：

受講者は92名であった。日本歯周病学会会員は24名で、内訳は、富山5名、石川4名、長野3名、東京3名、新潟2名、滋賀2名、京都2名、茨城2名、兵庫1名であった。日本歯科衛生士会会員は45名（内石川県歯科衛生士会会員39名）であった。非会員ではあるが、福井からの受講者も数名確認できた。石川県歯科衛生士会会員を軸として、北陸地方の歯科衛生士が主に受講したことが推測できる。

まず、石川県歯科衛生士会の市川会長より挨拶の後、午前中は野村委員より「行動療法」と「行動変容」についての説明が行われた。そして Prochaska の健康行動の行動変化のステージ理論を元に「糖尿病治療の支援」「歯周治療の支援」「禁煙支援」について概説された。

医科では喫煙がやめられないと「ニコチン依存症」という病名がつき、禁煙外来で保険治療を行うことができること。節煙と禁煙は異なること。さらに、タバコは依存性が強いので、アセスメントにはファーガストローム・ニコチン依存度テスト（生理学的な依存）と TDS ニコチン依存度テスト（心理学的な依存）を用いることが多く、禁煙外来では TDS ニコチン依存度テスト（心理学的な依存）が採択されていることなどが説明された。医科と歯科での禁煙支援のアプローチが異なることも考察された。

午後は、渋谷前委員長より、歯周病によって失われた口腔機能を回復するため、歯周外科後に行う口腔機能回復治療について、歯周治療の流れに沿って講義が行われた。アンカースクリューによる矯正治療や骨欠損部のインプラント治療など、多岐にわたる症例も提示された。また、インプラント周囲粘膜炎とインプラント周囲炎の説明から、インプラント治療時における歯周治療の重要性も強調された。さらに、再生療法については、GTR やエムドゲイン[®]から、日本歯周病学会認定歯科衛生士の関心が高いリグロス[®]

まで概説された。

受講者に認定歯科衛生士取得希望者が多いことが予測されたので、必須項目である歯周組織検査について理解を深めるために、動画にて説明があった。

アンケート結果（アンケート回答者は61名）によれば、日本歯周病学会認定歯科衛生士は16名で、取得希望者は14名であった。今回の会場は、北陸の利便性の高い場所に位置し、北陸各県のみならず近県からの受講者も見られた。今後、県内の認定歯科衛生士を中心に症例検討会等開催できれば、北陸地方の認定歯科衛生士の礎となる可能性が高いと感じられた。

